

冬季号 49巻1号
令和5年1月 **No.1**

会報 NEWS LETTER

紙リサイクルにもっとたくさんの方が参加する土台づくり。

令和4年度 紙リサイクルセミナー
公益財団法人 古紙再生促進センター 後援：経済産業省



令和4年度
「紙リサイクルセミナー」
テキスト



Topics

- 年頭挨拶（古紙再生促進センター 代表理事）
- 年頭所感（経済産業省 製造産業局 素材産業課長）
- 紙リサイクル出前授業実施報告（関東地区）



公益財団法人 古紙再生促進センター

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

目次

P2 活動報告

年頭挨拶

P2 公益財団法人古紙再生促進センター
代表理事 長谷川 一郎

年頭所感

P4 経済産業省 製造産業局 素材産業課長
吉村 一元

P6 紙リサイクルセミナー 開催報告

P10 出前授業①

P12 出前授業②

P14 センター日誌

センター日誌（10月～12月分）

中部地区委員会事務局長 新美 壽通 氏 紹介





令和5年 年頭挨拶

公益財団法人古紙再生促進センター

代表理事 長谷川 一郎

令和5年の新春を迎え、謹んでお慶び申し上げます。年頭に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年の我が国経済におきましては、春先以降は、ウィズコロナの下、社会経済活動の正常化が進みつつあり、サービス消費を中心に回復の動きがみられております。

一方、ロシアによるウクライナ侵攻を背景とした国際的な原材料価格の上昇に加え、円安の影響等によるエネルギーや食料品等の価格上昇が国民生活・事業活動に大きな影響を及ぼしています。また、世界規模の物価高騰がみられる中、各国・地域における金融引締めの影響などから世界的な景気後退懸念が高まっております。

こうした状況において、岸田政権は、昨年10月に事業規模総額で72兆円となる物価高克服・経済再生実現のための総合経済対策を策定し、GDPを4.6%押し上げることや消費者物価指数を1.2%以上引き下げることなどを目指した大規模な財政政策を閣議決定したところです。

さて、製紙業界を振り返りますと、デジタル化やコロナ禍等の影響による新聞やチラシなどの紙の需要減を受け、令和2年において、板紙の生産が紙の生産を逆転して以来、この傾向が一層顕著になっています。

古紙を取り巻く状況を見ますと、一昨年の夏前までは、国内古紙は余剰傾向にありましたが、それ以降、コロナ禍や天候不順の影響を受け、古紙の発生や回収が低調に推移し、国内の古紙在庫も減少傾向となっています。かかる状況において、昨年1月～10月までの古紙回収量は、一昨年比2.4%減となる約1,490万トンに留まっております。このままで推移しますと、最終的な古紙回収量は昨年1年間で1,800万トン程度となり、一昨年に比べ、50万トン弱減少する見通しであります。

センターとしましては、社会経済活動が早期に正常化し、古紙の発生や回収が回復することを願うとともに、持続的な紙リサイクルシステムの維持・向上のため、今まで以上に需給両業界と協力し、適切に対処していきたいと存じます。

ご高承のとおり、我が国の令和4年1月～10月までの古紙回収率は79.8%、古紙利用率は66.3%と高いレベルを維持しています。

一方、資源有効利用促進法に基づく古紙利用率の目標は、令和7年度において65%とされており、私ども、センターとしましては、古紙利用率が既に達成水準にあっても、これまで以上に、古紙利用率の更なる向上を図るため未回収古紙の掘り起こし等の取り組みを促進することが重要です。

このような古紙回収や利用率向上への取り組みによって、我が国の紙リサイクルシステムは、持続可能な資源の有効利用を通して、SDGsという大きな枠組みに直結していることを改めて認識し、諸活動を推進していきたいと考えております。

こうした中、当センターは令和6年に、関係省庁や自治体、需給両業界などの関係者の皆様のご協力もあって、創立50周年という大きな節目を迎えます。この50周年に当たり、次の時代を見据えて中長期的な課題整理に向けた検討を昨年より開始いたしました。本年以降は、紙リサイクルに関わるステークホルダーの方々とのコミュニケーション強化を図り、適切に情報交換を行い、今後の様々な社会動向に適応する持続可能な紙リサイクルシステムの在り方や課題について、中長期をイメージした共通ビジョンや認識を構築してまいります。

本年も製紙業界、古紙業界にとって大変厳しい状況が続くかと思われませんが、需給両業界の皆様におかれましては、当センターを討議の場として活用していただき、我が国の紙リサイクルの維持・発展に向けて叡智を結集していただきたいと存じます。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして、希望に満ちた明るい年になりますよう心からご祈念申し上げまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



年 頭 所 感

経済産業省 製造産業局
素材産業課長 吉村 一元

令和5年の新年を迎え、謹んでお喜び申し上げます。また、平素より経済産業行政に対する深いご理解と格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、ワクチン接種の拡大等によりコロナ禍から徐々に経済活動が回復しつつあった中、ロシアによるウクライナ軍事侵攻が始まり、これを背景とした国際的な原油・物価高騰や歴史的な円安など、息つく暇もなく新たな危機に直面することになりました。紙・パルプ産業においても、石炭をはじめとした原燃料価格の高騰などにより、様々な面で引き続き影響を受けておられると承知しています。

また、昨年は、安全保障の裾野が経済分野へ急速に拡大する中で、国家・国民の安全を経済面から確保することも喫緊の課題となっています。昨年5月に成立した経済安全保障推進法に基づき、我が国では日本の経済構造の自律性を向上させることと、技術優位性を高めて日本の不可欠性を得ることを目指し、様々な施策に取り組んでいます。

脱炭素社会の実現に向け、日本の経済・社会、産業構造のグリーン・トランスフォーメーション、GXを進めます。GX実行会議のとりまとめを踏まえ、安定供給を大前提に、再生可能エネルギーや原子力といった脱炭素エネルギーを将来にわたる選択肢として強化するためのあらゆる方策を講じてまいります。2050年カーボンニュートラルという野心的な目標を変革の好機として捉え、成長へとつなげていく必要があります。

素材産業は、自動車や電機電子、医薬品・消費財、建設資材など、我々の身の回りにあるありとあらゆる製品の素材を供給することで社会経済を下支えする非常に重要な産業であり、また、これら素材産業が生み出す多種多様な素材は、それ自体が日本の競争力の源泉ともいえます。他方で、装置産業でもある素材産業は、生産プロセスにおいて大量の電気や熱を消費する「エネルギー多消費産業」でもあります。

我が国のCO₂排出量の約1/4を占める素材産業は、“Hard-to-abate”、すなわち排出削減が困難なセクターと言われているように、GXの実現は容易ではありません。従来とは全く異なる生産プロセス等の実現に挑戦する民間を後押しすべく、規制・支援一体型の投資促進策を講じてまいります。

これまでのグリーンイノベーション基金による研究開発支援や、石炭火力自家発電等の脱炭素化に向けた調査支援などに加え、今後10年間で150兆円超の官民の投資を実現するべく、ロードマップに基づいて、GX経済移行債を活用した20兆円規模の大胆な先行投資支援や、カーボンプライシングの導入について方針を予め示すこと等を通じて、予見可能性を高め、民間投資を後押しします。

昨年2月に発表した「GXリーグ基本構想」には、既に日本のCO₂排出量の4割以上を占める500社以上の企業より参加表明を頂きました。本年は、GXリーグの活動を発展させ、GX経済移行債の発行や排出権取引の枠組みを含む「成長指向型カーボンプライシング構想」の検討を一層進めてまいります。

これらのカーボンニュートラルに向けた取組は、もはや経済成長の制約ではなく、新たなビジネスチャンスにつながる成長戦略そのものです。革新的な技術開発を通じ、日本の素材産業がこれまで以上に国内外の産業界全体に貢献する産業となっていくことを期待しています。

また、製造業の競争力強化を図る上で、サプライチェーン全体での取引適正化や、取引条件の改善も重要な課題です。昨年も、3月と9月を価格交渉促進月間と設定し、取引環境の改善に向けた取組の普及・啓発を進めるとともに、業界緊急調査として、ロシア産石炭の依存度が高く輸入禁止の影響が懸念される関係業界のコスト上昇分の転嫁状況を調査いただきました。サプライチェーン全体の共存共栄を目指す「パートナーシップ構築宣言」については、大企業での更なる拡大と実効性の確保に取り組めます。

さらに、経済産業省は、三陸・常磐地域の水産業等の本格的な復興に向けて、昨年末、官民連携の枠組みである「魅力発見!三陸・常磐ものネットワーク」を立ち上げました。このネットワークでは、産業界、自治体、政府関係機関等から広く参加を募り、水産物等の売り手と買い手を繋げることで、「三陸・常磐もの」の魅力を発信し、消費拡大を図ります。産業界の皆様におかれましては、ぜひネットワークへの積極的な協力・参加をお願いいたします。

新型コロナウイルスの感染拡大についてはまだまだ注視が必要な状況ではありますが、経済産業省としては、様々な施策を総動員し、業界の皆様とも連携しながら、紙・パルプ産業の成長のために全力を尽くしていく所存です。紙は我々の生活には欠かせない、生活必需品でございます。引き続き国民の生活を支えていただくとともに、我が国産業にとっても重要な役割を果たしてゆかれることと期待申し上げます。皆様の御健康と御多幸を、そして紙・パルプ産業の更なる発展を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

令和4年度

紙リサイクルセミナー開催報告



令和4年度「紙リサイクルセミナー」は下記の通り開催され、盛況のうちに無事、終了いたしました。

本年度は昨年同様新型コロナウイルス感染症対策として、会場だけでなくYouTubeでのライブ配信を並行して行いました。また、10月14日（金）～10月31日（月）までの期間、録画配信を行いました。

ご来場・ご視聴いただき、心より感謝申し上げます。

日時	令和4年10月13日（木） 13時30分から16時00分		
開場	星陵会館		
主催	公益財団法人古紙再生促進センター		
後援	経済産業省		
参加人数	会場	41名	
	ライブ配信	約100名	
	録画視聴	約660名	



セミナー

開会挨拶 （公財）古紙再生促進センター 代表理事 長谷川 一郎

講演 I 「紙リサイクルとSDGs」

公益財団法人古紙再生促進センター 業務部技術担当部長 甲斐 和生

II 「サーキュラーエコノミー（循環経済）：グローバルトレンドのインパクト」

公益財団法人地球環境戦略研究機関 主任研究員 粟生木 千佳 氏

III 「世界の紙・板紙の市場動向について」

国際紙パルプ商事株式会社 グローバルビジネス統括本部
海外営業本部 海外営業1部 部長 高瀬 誠重 氏

閉会挨拶 （公財）古紙再生促進センター 副理事長 栗原 正雄

司会 （公財）古紙再生促進センター 業務部長 中田 広一

開会挨拶要旨

公益財団法人 古紙再生促進センター 代表理事 長谷川 一郎

- ・ 本年はロシアによるウクライナ侵攻や円安による原料価格の高騰などにより、製紙・古紙業界だけでなく様々な業種に大きな影響が生じている。他方で、新型コロナウイルス感染症のオミクロン株が第7波のピークを越え、同株に対応したワクチン接種も始まり、再び経済活動が活性化していくことを期待している。
- ・ 令和3年度の古紙回収率は80.0%、古紙利用率は65.9%と非常に高いレベルを維持している。資源回収利用促進法に基づく古紙利用率の目標は令和7年度において65%とされており、既に達成水準にあるもののこれまで以上に古紙利用率向上に向けた取り組みを継続し、ステークホルダーにおける共通認識形成を図りつつ諸活動を促進していく所存である。
- ・ 当センターは令和6年に関係者の皆様のご協力もあって、節目となる創立50周年を迎える。この50周年に向けて、次の時代を見据えた中長期的な課題整理の検討を段階的に行い、多くの関係者と将来像を共有することによって、今後の紙リサイクルの課題対応を考える風土を醸成していきたい。



講演概要

「紙リサイクルとSDGs」

公益財団法人古紙再生促進センター 業務部技術担当部長 甲斐 和生

- ・ 古紙再生促進センターによる紙リサイクル並びにセンター活動とSDGs目標の関連付け、その整理を目的とした「SDGsレポート」の内容及び取りまとめの経緯について講演した。
- ・ 紙リサイクルが担うSDGs目標は目標4・11・12・13・15・17の6目標が挙げられた。検討プロセスとしては、紙リサイクルに関わるステークホルダー毎に紙リサイクルにおける役割とSDGs目標を紐づけ、共通項を抽出・整理した。最後にステークホルダーにアンケート調査を行い、関係性整理の妥当性について確認した。
- ・ センター事業とSDGs目標の関係性は目標4・9・11・12・13・15・17の7目標が挙げられた。検討プロセスとしては、センター内で改めて事業概要の確認とSDGs目標との紐づけを行い、ステークホルダーにアンケート調査を通じて紐づけの妥当性を確認することで関係性を整理した。
- ・ 最後に今後の社会変化と中長期的な課題を確認し、これらの課題を循環型社会の形成に向けて多様なステークホルダーとSDGsを通じた連携で対応していくとした。



講演概要

「サーキュラーエコノミー（循環経済）： グローバルトレンドのインパクト」

公益財団法人地球環境戦略研究機関 主任研究員 粟生木 千佳 氏



- ・サーキュラーエコノミー（循環経済）を中心に、EUのイニシアチブから海外の取組、我が国の現状や今後の世界経済・消費者への影響について講演した。
- ・サーキュラーエコノミー（循環経済）とは、あらゆる段階で資源の効率的・循環的な利用を図りつつ、ストックを有効活用しながらサービス化等を通じ、付加価値の最大化を図る経済のことである。
- ・サーキュラーエコノミー実施のポイントは①長寿

命、②循環、③代替、④省資源の4点が挙げられる。この4つのポイントを実現するためには、製品デザイン・ビジネスモデルの変革や紙リサイクルを含む社会システムの変革が必要となる。EUの事例では売れ残り製品の廃棄抑制・禁止を実現するために製品の年間廃棄量や廃棄理由、再利用・リサイクルによって回収されたエネルギー等の情報開示を義務付ける方針を打ち出しており、システムそのものを変革することで循環型社会形成を実現しようとしている。

- ・日本でサーキュラーエコノミーを実現するためには4つのポイントを抑えた官民協働での社会制度・ルール形成を行い、社会システムの変革が必要である。

講演概要

「世界の紙・板紙の市場動向について」

国際紙パルプ商事株式会社 グローバルビジネス統括本部
海外営業本部 海外営業1部 部長 高瀬 誠重 氏



- ・直近のエネルギー価格の高騰や各地域の経済動向による世界の紙・板紙の市場への影響と紙市場の今後の行方について講演した。
- ・2020年の世界の紙・板紙生産量は4億600万トンとなっており、この10年で3%（1,200万トン）程度増加している。この10年間で北米・欧州メーカーの生産量が減少しているが、アジアでは増産が続いている。アジア域内での生産量のうち中国が約60%を占め、世界全体でも約29%を占めている。日本と台湾を除くアジア主要国はこの10年間に生産量は大きく伸び、2024年までの増産計画でも段原紙を中心に新設・転抄が計画されている。世界全体で2020年から2024年までの5年間に約4,000万トンの設備が稼働すると見込まれ、供給過剰となる可能性が懸念されている。

- ・今後の紙市場は、短期的には増設による供給過剰が予測され、特にアジアでは増設の約2,500万トンがアジア域内で消費しきれなくなる。一方で欧州ではロシアのウクライナ侵攻に伴う深刻なエネルギー問題を抱えており、域内での生産にも支障が出ることが予想されることから、アジアから欧州・中近東への輸出供給が加速すると想定される。中長期的にはEC宅配需要の拡大や脱プラ化、アフリカを中心とした人口ボーナスによる消費の増加が期待される。

閉会挨拶要旨

公益財団法人 古紙再生促進センター 副理事長 栗原 正雄



本日の講演は多様な観点から紙リサイクルに関する講演をいただいた。今後の紙リサイクルの在り方を考えるうえで、大変有意義な講演だった。このコロナ禍において会場参加だけでなく YouTube によるライブ配信を含めて多くの方にセミナーに参加していただきましたことを改めて御礼申し上げます。



今回の紙リサイクルセミナーで使用したテキストはセンター HP にアップロードしています。

以下の QR コードよりご確認ください。





出前授業

横浜市立 本牧小学校

関東地区



体験学習を通じて、
紙リサイクルの大切さを学ぶ

実施概要

実施日	2022年11月1日(火)
実施場所	横浜市立本牧小学校(横浜市中区本牧和田5番1号)
参加者	小学4年生 1クラス(39名)
講師	古紙再生促進センター職員 古紙再生促進センター静岡地区事務局 長橋 宏和
概要	講義・手すきはがき作りともに理科室にて実施

活動報告

お知らせ

センター日誌

紙リサイクル授業の様子

紙リサイクル授業は、理科室で対面にて実施しました。

パルプの実物見本の観察や〇×クイズなど児童の積極的な参加を促す授業を心がけて進めました。パルプ見本の観察では初めてパルプを見た児童も多く、周囲の友達と相談しながらパルプが何からできているか考える様子が伺えました。普段使っている紙がパルプからできていることを知った児童からは驚きの声が挙がっていました。

横浜市の分別区分や禁忌品についてはクイズを通じて一緒に学習を進めました。特に禁忌品に関する〇×クイズは児童の皆さんに積極的に参加していただき、楽しみながらリサイクルできない紙類があることを学ぶことができました。

この授業を通じて紙リサイクルへの関心や理解を深め、普段の生活から分別への意識を高めてもらえたのではないかと思います。



〇×クイズの様子

手すきはがき作りの様子

紙リサイクル授業の次の時間は、実際に使い終わった紙を新しいはがきに生まれ変わらせる手すきはがき作りの実験を行いました。

不要になったコピー用紙を水と一緒にミキサーで細かくほぐし、すき枠に流し込むことで新たなはがきを作成していました。

座学で紙リサイクルについて学ぶだけでなく、実際に自らの手でリサイクルを行うことでより一層紙リサイクルの大切さを実感する時間になりました。



手すきはがき作りの様子



板橋区立 リサイクルプラザ

関東地区



POINT 紙すき体験を通じて、家族と一緒に
紙リサイクルについて学ぶ

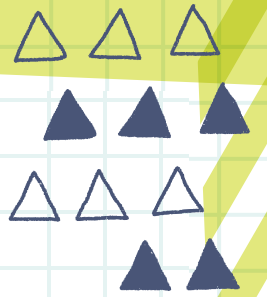
実施概要

実施日	2022年11月27日(日)
実施場所	板橋区立リサイクルプラザ3階 多目的室
参加者	小学1年生～5年生およびその保護者 11名(9家族) 1年生:6名 2年生:1名 3年生:1名 4年生:2名 5年生:1名
講師	古紙再生促進センター職員

活動報告

お知らせ

センター日誌



紙リサイクル授業の様子

出前授業では、はじめに紙リサイクルについての講義を行いました。

板橋区の古紙分別区分や禁忌品について、クイズ形式で授業を行いました。子どもたちは保護者と相談しながらクイズに取り組んでおり、クイズの正解が発表されると、家族で喜んだり、悔しがったりする様子も見られ、楽しみながら講義に取り組むことができました。

家族みんなでリサイクルやごみ問題を考える時間となりました。

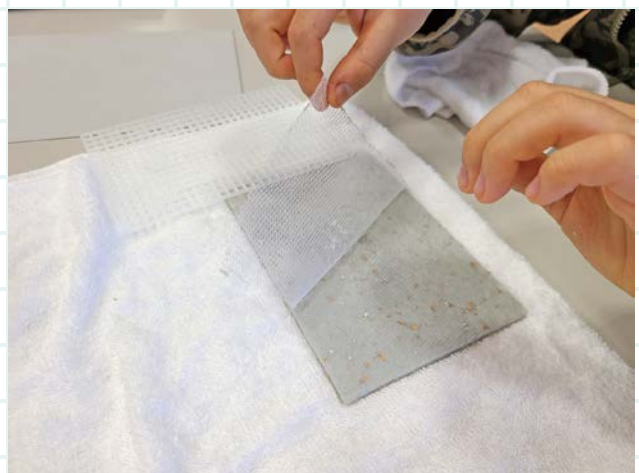


手すきはがき作りの様子

手すきはがき作りでは、家族で協力しながら一人ひとりがはがき作りを実施しました。

講師によるデモンストレーションの後、それぞれの机で保護者と一緒にはがき作りを行いました。一度使用したコピー用紙を水と一緒にかき混ぜ、手すきキットで漉くことではがきになる過程を体験し、子どもたちからは驚きの声があがっていました。

また、今回の手すきはがき作りではコピー用紙に色紙（緑）を混ぜたものと金色の折り紙を混ぜたものの3種類のはがきを作成していただきました。特に禁忌品である金色の折り紙を混ぜたはがきは、キラキラと光沢が残ってしまいます。子ども達には通常のはがきと禁忌品を混ぜたはがきを比べて観察してもらうことで、リサイクル後の製品に与える影響や禁忌品を混入しないことの大切さを実感してもらいました。



金色の折り紙（禁忌品）を混ぜて作成した様子

令和4年度 センター日誌

10月分～12月分

月	日	会議名	主要議題
10月	14日(金)	第1回輸出委員会	① 委員会委員紹介 ② 委員会の名称、活動目的、実施事業について ③ 運営規程について ④ 正副委員長について ・委員長の選出 ・副委員長の選出 ・委員長挨拶 ⑤ 古紙需給の現状及び見通しに関する情報交換 ・古紙需給の現状及び見通しに関する情報交換について ・古紙発生量の現状及び見直し報告 ・国内製紙会社の古紙消費の現状及び見直し報告 ・古紙輸出に関するトピックス及び見直し報告 ⑥ その他 ・中長期的課題整理に向けて ・委嘱状について ・その他 ⑦ 2022年度の委員会スケジュール
		中部地区委員会 東海分会 (Web会議システム併用)	① 古紙の需給・市況動向について ② 集団回収感謝状贈呈団体の推薦 ③ 紙リサイクル出前授業について ④ 環境デーなどについて ⑤ その他 今後の中部地区委員会の開催予定
18日	(火)	東北地区委員会	① 報告事項 ・「中長期的課題整理にむけて」 ・関東地区委員会報告 ② 古紙の需給・市況動向について ・古紙需給動向(製紙会社) ・古紙需給動向(古紙問屋) ・意見交換 ③ その他 ○集団回収感謝状贈呈式について(案) ・交付8団体推薦並びに集団回収特別活動賞について ・開催日時 12月9日(金) 13:30 ・開催場所 仙台サンプラザ(計画中) ・集団回収特別活動賞の設定について
19日	(水)	近畿地区委員会	① 古紙の需給・市況動向について ② その他 今後の近畿地区委員会等の開催予定
20日	(木)	九州地区委員会	① 古紙の需給・市況動向について ② 古紙の品質問題について ③ センター創立50周年を迎える事業計画の策定と取り組みについて ④ 中長期的課題整理に向けたヒアリングについて ⑤ 広報事業について ・「親と子の紙リサイクル読本」の作成 ・紙リサイクルバスツアー実施予定 ・オンライン紙リサイクル出前授業の小学校への案内 ・紙リサイクルコンテスト2022の応募要請 ・紙リサイクルセミナーの動画配信 ・令和4年度地区活動計画 ⑥ その他 今後の九州地区委員会等の開催予定

月	日	会議名	主要議題
10月	21日(金)	中部地区委員会 北陸分会	① 古紙の需給・市況動向について ② 集団回収感謝状贈呈団体の推薦 ③ 紙リサイクルセミナーについて ④ 業務委員会報告 ⑤ その他 今後の中部地区委員会等の開催予定
	25日(火)	関東地区委員会 (Web会議システム併用)	① 古紙需給動向(古紙問屋) ② 古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③ 古紙品質トラブル報告 ④ 関東地区古紙品質調査古紙開梱組成結果(令和4年度上期) ⑤ 2022年10月～2023年3月における段ボール、新聞、雑誌の消費計画について ⑥ その他 ○令和4年度「紙リサイクルセミナー」(10月13日(木)開催) ・10月31日(月)まで当センターホームページよりYoutubeを通して録画動画配信中 ・講演タイトル/講師 「紙リサイクルとSDGs」 公益財団法人古紙再生促進センター 業務部技術担当部長 甲斐和生 「サーキュラーエコノミー(循環経済): グローバルトレンドのインパクト」 公益財団法人地球環境戦略研究機関 主任研究員 粟生木千佳氏 「世界の紙・板紙の市場動向について」 国際紙パルプ商事株式会社 グローバルビジネス統括本部海外営業本部 海外営業第1部 部長 高瀬誠重氏 ○Webセミナー ライブ配信11月17日(木) 14:00～15:00 録画配信11月25日(金)～12月25日(日) ・講演内容: (仮) インド経済の現状と今後の見直し ・講師: 日本貿易振興機構(ジェトロ) 海外調査部アジア大洋州課 課長代理 北村 寛之氏 ○紙リサイクル出前授業 11月 1日(火) 横浜市立本牧小学校 11月27日(日) 板橋区 ○今後の関東地区委員会等の開催予定
31日	(月)	10月度常任理事会	① 集団回収実施団体への感謝状贈呈について(東北地区委員会、中部地区委員会からの推薦) ② 令和4年度紙リサイクルセミナー(結果報告) ③ 国際委員会(旧輸出委員会)について ④ 新年互礼会の開催について 日時: 令和5年1月6日(金) 13:30～ 場所: 経団連会館ダイヤモンドルーム ⑤ SDGsについて ⑥ 令和4年度第6回業務委員会議事次第について ⑦ その他 今後のスケジュールについて
		第7回業務委員会 (Web会議システム併用)	① 各地区の古紙需給・市況動向について ② 2022年10月～2023年3月における段ボール、新聞、雑誌の消費計画について ③ 集団回収実施団体への感謝状贈呈について(東北地区委員会、中部地区委員会からの推薦) ④ 令和4年度紙リサイクルセミナー(結果報告) ⑤ 古紙開梱組成結果(中間報告) ⑥ 国際委員会(旧輸出委員会)について ⑦ 新年互礼会の開催について ⑧ SDGsについて ⑨ その他 今後の業務委員会等の開催予定

月	日	会議名	主要議題
11月	22日(火)	関東地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ③古紙品質トラブル報告 ④雑がみ分別啓発、諸課題の対応について ⑤その他 ○全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2022 ・応募状況について ・応募締切:12月9日(金)当日消印有効 ・表彰式:(予定) 2023年3月4日(土)ホテルメトロポリタンエドモント ○Webセミナー 録画配信 11月24日(木)~12月23日(金) ・講演内容:インド経済概況と日系企業の最新動向 ・講師:日本貿易振興機構(ジェトロ) 海外調査部アジア大洋州課 課長代理 北村寛之氏 ○紙リサイクル出前授業 11月27日(日)板橋区(板橋区立リサイクルプラザ) ○センター新年互礼会 2023年1月6日(金)13時00分 経団連会館ダイヤモンドルーム ○今後の関東地区委員会等の開催予定
		中部地区委員会 甲信分会	①古紙の需給・市況動向について ②集団回収感謝状贈呈団体の推薦 ③令和4年度予算について ④ながの環境フェア実施報告 ⑤その他
24日	近畿地区委員会 (木)		①雑がみ分別啓発、諸課題の対応について、中長期的課題整理に向けたヒアリング ②古紙の需給・市況動向について ③検収委員会報告 ④その他 今後の近畿地区委員会等の開催予定
25日	北海道地区委員会 (金)		①古紙共販集計表について ②古紙需給動向について ③古紙消費実績と計画対比表について ④令和4年10月~令和5年3月古紙消費計画について ⑤北海道商組の古紙仕入・出荷・在庫量調査表について ⑥古紙の消費量と在庫量の推移 ⑦情報交換 ⑧その他 ・令和5年度リサイクル・ペーパー・フェアについて ・令和5年度小学校出前授業について ・新年互礼会について ・今後の北海道地区委員会等の開催予定
28日	11月度常任理事会 (月)		①集団回収実施団体への感謝状贈呈について(中部地区委員会からの推薦) ②集団回収感謝状贈呈 推薦基準について(討議) ③「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2022」の応募状況等について ・応募状況について ・応募締切:12月9日(金)当日消印有効 ・表彰式:(予定)2023年3月4日(土) ホテルメトロポリタンエドモント ④2023年度(令和5年度)予算策定関連 ⑤令和4年度第7回業務委員会議事次第について ⑥その他 今後のスケジュールについて

月	日	会議名	主要議題
11月	28日(月)	第7回業務委員会 (Web会議システム併用)	①各地区の古紙需給・市況動向について ②集団回収実施団体への感謝状贈呈について (中部地区委員会からの推薦) ③「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2022」の応募状況等について ・応募状況について ・応募締切:12月9日(金)当日消印有効 ・表彰式:(予定)2023年3月4日(土) ホテルメトロポリタンエドモント ④雑がみ分別啓発、諸課題の対応について ⑤その他 今後の業務委員会等の開催予定
	29日(火)	第2回新潟分会	①古紙需給報告 ②令和4年度集団回収感謝状贈呈について ③令和5年度以降の事業について ④古紙再生促進センター活動について ・雑がみ分別啓発、諸課題の対応について ⑤その他 ・新潟共販事業について
		静岡地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ○古紙の市況動向・品質状況報告 ②事務局からの連絡事項 (広報事業) ○集団回収実施団体への感謝状贈呈式開催報告 ○『ものづくり力交流フェア2023』への出展について ・日時:令和5年2月10日(金)10時~17時 令和5年2月11日(土)10時~16時 ・場所:富士市産業交流展示場 ふじさんめっせ ・内容:禁忌品パネルを展示し、来場者に雑がみ回収用袋を配付しながら古紙の分別回収と禁忌品混入防止を呼び掛ける。 ○紙リサイクル出前授業 ・実施報告及び今後の計画について ・関東地区出前授業見学報告 (地区事業) ○委員研修会実施報告 ・日時:11月18日(金)9時30分~14時 ・場所:ヤマハイノベーションロード、 航空自衛隊浜松基地広報館エアーパーク ・参加者:21名 ○委員懇話会の開催について ・日時:令和5年1月25日(水)17時30分~19時 地区委員会終了後に開催 ○地区事業参加者の費用負担について ③その他 ・令和5年度予算について ・国際委員会(旧輸出委員会)について ・年末年始のメーカー古紙受け入れ計画の調査 ・「全国小中学生“紙リサイクル”コンテスト2022」の応募状況について ・雑がみ分別啓発、諸課題の対応について ・今後の静岡地区委員会の開催予定

月	日	会議名	主要議題
12月	9日(金)	東北地区委員会	①報告事項 ・「雑がみ分別啓発、諸課題の対応について」 ・関東地区委員会報告 ②古紙の需給・市況動向について ・古紙需給動向(製紙会社) ・古紙需給動向(古紙問屋) ・意見交換 ③その他 ○集団回収感謝状贈呈 推薦基準の変更について(案) ○集団回収感謝状贈呈団体の代理授賞式 ○今後の東北地区委員会等の開催予定
12月	12日(月)	中・四国地区委員会 (Web会議システム併用)	①雑がみ分別啓発、中長期的な課題について ②製紙メーカー生産状況・古紙入荷状況 ③各地区の古紙需給・市況報告 ④質疑応答 ⑤事務局報告 集団回収実施団体への感謝状贈呈について ⑥雑がみ回収の課題点について
14日	(水)	第2回国際委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給の現状及び見通しに関する情報交換 ・古紙需給の現状及び見通しに関する情報交換について ・古紙発生の現状及び見通し報告 ・国内製紙会社の古紙消費の現状及び見通し報告 ・古紙輸出に関するトピックス及び見通し報告 ②その他 ・Webセミナーについて ・雑がみ分別啓発、諸課題の対応について ・国際委員会委員による座談会について ・海外との国際交流について ・その他 ③2022年度の委員会スケジュール
15日	(木)	九州地区委員会	①古紙の需給・市況動向について ②古紙の品質問題について ③令和4年度の今後の活動計画 ④報告事項 ・紙リサイクルコンテスト2022の応募進捗状況 ・紙リサイクルバスツアー実施状況、令和5年度の申請について ・オンライン紙リサイクル出前授業の小学校への案内 ・集団回収感謝状贈呈推薦基準の変更について(案) ・紙リサイクルセミナーの動画配信

月	日	会議名	主要議題
12月	15日(木)	九州地区委員会	⑤その他 11月17日(水)Webセミナー録画配信 講演内容:インド経済概況と日系企業の最新動向 12月23日迄配信 雑がみ分別啓発、諸課題の対応について 海外関連トピックス
16日	(金)	中部地区委員会 東海分会 (Web会議システム併用)	①古紙の需給・市況動向について ②紙リサイクル出前授業について ③その他 ・雑がみ分別啓発、諸課題の対応について ・廃棄物管理責任者講習会の資料作成について ・今後の課題としてマルチパックの取り扱いについて ・今後の中部地区委員会等の開催予定
21日	(水)	関東地区委員会 (Web会議システム併用)	①古紙需給動向(古紙問屋) ②古紙及び製品需給動向(製紙会社) ・年末年始 古紙荷受け予定日 ③古紙品質トラブル報告 ④その他 ○Webセミナー 12月23日(金)まで録画配信 ・講演内容:インド経済概況と日系企業の最新動向 ・講師:日本貿易振興機構(ジェトロ) 海外調査部アジア大洋州課 課長代理 北村寛之氏 ○古紙再生促進センター 新年互礼会 2023年1月6日(金)13時00分 経団連会館4階 ダイアモンドルーム ○紙リサイクル出前授業 2023年2月4日(土)足立区 ○紙リサイクル研修会 2023年2月16日(木)市川市 ○今後の関東地区委員会等の開催予定
22日	(木)	第13回家庭紙委員会 (Web会議システム併用)	①古紙入荷・消費・在庫(2022年8月~10月) 古紙地域別入荷(同上) ②古紙需給の現状及び見通しに関する意見交換 ○古紙発生の現状、見通し、古紙輸出、トピックス等(古紙問屋より報告) ○メーカー消費の現状及び見通し(メーカーより報告) ③古紙の品質に関する情報交換 ○メーカーでの品質トラブル、禁忌品報告(メーカーより報告) ○意見交換 ④その他 ・次回以降の家庭紙委員会の日程について

センター新入職員のご紹介 当センター中部地区委員会の新入職員を紹介します。



氏 名 新美 壽通 (にいみ としみち)
 役 職 中部地区委員会 事務局長
 生年月日 1957 年 10 月 15 日
 入職年月 2022 年 12 月 1 日
 略 歴 王子製紙春日井工場事務部業務グループマネージャー

一言コメント

初めまして、12月1日付けで中部地区委員会事務局に採用されました新美 壽通(にいみ としみち)と申します。

古紙再生促進センター関連の業務は初めてとなりますので、少しの間ご迷惑等おかけすると思いますが広い心でやさしく、お手柔らかに宜しくお願い申し上げます。

編集後記

明けましておめでとうございます。

さて、本号では令和4年10月13日（木）に開催した紙リサイクルセミナーについて掲載しました。今回の開催も昨年に引き続き人数制限を講じた上での会場参加とYoutubeでのライブ配信及び約2週間の録画配信という形態で開催しました。SDGs やサーキュラーエコノミー、世界の紙・板紙の市場動向といったこれからの紙リサイクルを取り巻く環境の変化を考えるためのキーワードが盛り込まれた内容になっていますので、是非講演要旨をご覧ください。多くの方にご参加・ご視聴いただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

今後とも、会報では様々なセンターの活動についてお伝えしてまいります。本年もセンター活動に関して、皆様のご協力をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願い申し上げます。

（武田）

地区委員会事務局

地区	郵便番号	所在地	電話番号	FAX 番号
北海道	060-0002	札幌市中央区北二条西2丁目 リージェントビル5階	011 (271) 1551	011 (232) 0017
東北	980-6003	仙台市青葉区中央4-6-1 住友生命仙台中央ビル3階 日本紙パルプ商事（株）北日本支社内	022 (225) 3359	022 (261) 4522
関東	104-0042	東京都中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル4階	03 (3537) 6822	03 (3537) 6823
静岡	417-0801	富士市大淵2590番1号 静岡県富士工業技術支援センター内	0545 (35) 5270	0545 (35) 5026
中部	450-0002	名古屋市中村区名駅3丁目25番9号 堀内ビル7階	052 (582) 1836	052 (581) 6943
近畿	541-0052	大阪市中央区安土町1丁目7番13号 トヤマビル7階 日本製紙連合会関西支部内	06 (6262) 6315	06 (6262) 6316
中・四国	799-0492	四国中央市三島紙屋町2番60号 大王製紙（株）内	0896 (23) 9124	0896 (23) 4411
九州	812-0011	福岡市博多区博多駅前4丁目13番27号 グランドハイツ博多314号	092 (292) 5381	092 (292) 5382

会報

news
LETTER

第49巻 第1号
2023年1月20日

発行所

公益財団法人古紙再生促進センター

〒104-0042 東京中央区入船3丁目10番9号 新富町ビル 4F

電話 03 (3537) 6822 (代表)

ホームページ <http://www.prpc.or.jp>

発行人 川上 正智

印刷所 日本印刷株式会社

リサイクル適性[®]

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

古紙再生促進センターは2022年に紙リサイクルが担うSDGsの6つの目標を設定しました



公益財団法人 古紙再生促進センター

